



サクサグループ

環境報告書

2019



目次

目次	2
会社概要	2
編集方針	2
事業概要	2
環境報告書2019について	3
環境管理のあゆみ	3
環境管理に影響を及ぼす事業環境等の変化	3
ごあいさつ	4
サクサグループ環境宣言・環境方針	5
サクサグループ環境計画	5
環境保全活動推進組織体制	6
環境マネジメントシステム・ISO14001認証取得状況	6
製品の環境配慮	7～8
環境配慮設計に関わる制度	7
サクサエコ商品	8
事業活動に関する環境配慮	9～11
地球温暖化防止・省エネルギー	9
廃棄物削減・循環資源化	9
化学物質管理、ポリ塩化ビフェニルの管理、規制遵守状況	10
緊急事態へ対応、環境教育・啓蒙活動	11
2018年度環境目標達成状況	11
社会貢献活動を通じた環境への寄与	12

会社概要

商号	サクサホールディングス株式会社
本社所在地	〒108-8050 東京都港区白金一丁目17番3号 NBFプラチナタワー
設立	2004年2月2日
資本金	108億円(2019年3月31日現在)
代表者	代表取締役社長 松尾 直樹
年間売上高	397億円(2019年3月期実績・連結)
グループ従業員数	1,131名(2019年3月31日現在)
経営理念	独創的な技術を核に、新しい価値を創造し、 活力とゆとりある社会の発展に貢献する
＜サクサグループ(2019年3月31日時点)＞ 連結決算範囲	
サクサホールディングス株式会社(持株会社)	
└ サクサ株式会社(事業中核会社)	
└ サクサテック株式会社(生産会社)	
└ サクサシステムエンジニアリング株式会社(システム開発会社)	
└ サクサシステムアメージング株式会社(システム開発会社) ※1	
└ 株式会社システム・ケイ(システム開発会社) ※1	
└ サクサプロアシスト株式会社(グループ内サービス会社)	
└ サクサプレジジョン株式会社(生産販売会社)	
└ サクサビジネスシステム株式会社(販売・保守サービス会社)	
※1 サクサグループ環境保全活動推進組織外であるため、本報告書での活動実績には含まれていません。	

編集方針

参照ガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)を可能な範囲において参考にし、作成しています。
公表媒体	本報告書は、紙資源使用抑制の観点から、サクサグループホームページのWebによる公開のみとします。 https://www.saxa.co.jp/ 「環境への取り組み」
発行日	2019年10月25日

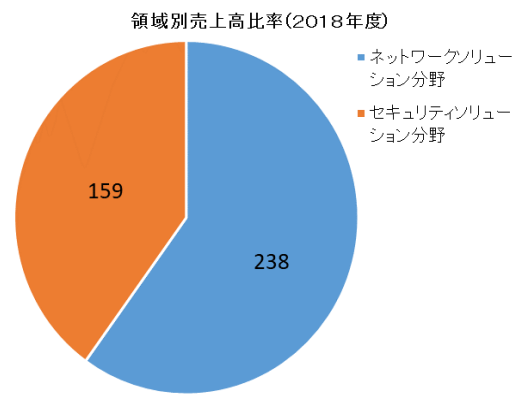
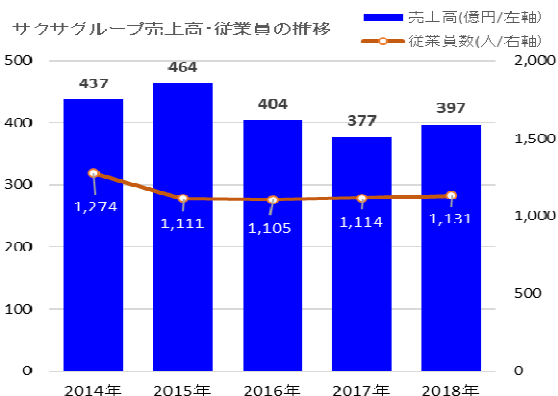
事業概要

サクサグループは、「独創的な技術を核に、新しい価値を創造し、活力とゆとりある社会の発展に貢献する」を経営理念として掲げ、お客様にとって安心、安全で快適、便利な環境を実現するソリューションをタイムリーに提供し続けることを目指す企業グループです。

事業領域 ＜ソリューション・商品＞

ネットワークソリューション分野： 中小規模オフィス向けキーテレホンシステム、IPネットワーク等の製品・サービス、光関連機器、ネットワーク機器、UTM(統合脅威管理アプライアンス)、ネットワークビデオレコーダ、VMS

セキュリティソリューション分野： 警備保障会社向け警備システム、火災通報装置、オートホンシステム、ホームセキュリティシステム、自動音声通報装置、非常通報装置、各種カードR/W、光警報機、センサ関連商品



会社概要、事業概要等の詳細については、サクサグループホームページ(<https://www.saxa.co.jp/>)の「企業情報」および「株主・投資家の皆様へ」に掲載した公表資料等で、また、ソリューション・商品の詳細は「製品・システム情報」「ソリューション」でご覧になることができます。

環境報告書2019について

対 象 期 間	本環境報告書は、2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)における状況、成果等を公開するものですが、内容により、当該年度前後の事項に関するものを含む場合があります。必要に応じ時期を記載します。						
活動結果、実績等に関する対象範囲 (商号、所在地およびこれに関わる情報は、2019年4月1日現在のものです。)	本報告書に記載した内容は、以下のグループ企業によるものです。 必要により、これ以外のグループ企業、拠点等に関する情報を記載する場合は、会社名、拠点名等を記載します。 なお、エネルギー使用量、廃棄物のデータは、自社で直接把握、管理できる範囲としてサクサグループ所有事業場(②～⑥の5事業場)について集計、記載しています。						
		①	②	③	④	⑤	⑥
	サクサホールディングス株式会社	◎	○				
	サクサ株式会社	◎	○	○			
	サクサシステムエンジニアリング株式会社		○				◎
	サクサテクノ株式会社			○	◎		
	サクサプレジジョン株式会社 ※1					◎	
	サクサプロアシスト株式会社		◎	○			
	サクサビジネスシステム株式会社 ※2		○				
	サクサシステムアメージング株式会社※3 株式会社システム・ケイ※4						
◎:本社(または本社機能)所在地、○:その他の事業所等 ①はテナントとして入居							
① 東京都港区白金1-17-3 NBF プラチナタワー ② 神奈川県相模原市中央区宮下3-14-15							
③ 山形県米沢市東1-10-71 ④ 山形県米沢市八幡原4-3146-13							
⑤ 山形県米沢市中田町1713 ⑥ 青森県八戸市北インター工業団地1-3-54							
※1 本店 : 東京都新宿区新宿1-4-8							
※2 本社 : 東京都品川区東五反田1-7-6 藤和東五反田ビル							
※3 本社 : 東京都新宿区西新宿1-19-5 第二明宝ビル							
※4 本社 : 北海道札幌市東区北十五条東1-2-24							
お 問 合 せ 先	サクサホールディングス株式会社 CSR統括室 〒108-8050 東京都港区白金1-17-3 NBF プラチナタワー TEL:03-5791-5515 FAX:03-5791-5562 E-mail:eco@saxa.co.jp						

環境管理のあゆみ

年	主 な 出 来 事
2004(H16)	サクサグループ発足、グループ一体となった環境マネジメントシステムを構築、運用開始(4月)
2005(H17)	・サクサ株式会社として ISO14001 認証取得済みの本社、相模原、米沢地区に加え、中延事業場を、また、関連事業所としてサクサシステムエンジニアリング株式会社(青森県八戸市)、サクサテクノカルサービス株式会社(栃木県矢板市)を拡大登録、グループ一体となった認証を取得(3月)(注:最新の認証登録範囲は6ページに記載) ・サクサエコ製品基準制定、認定開始(4月)
2006(H18)	・閉鎖事業場(日黒・中延・栃木)からのポリ塩化ビフェニル使用機器移動、届出完了(～3月) ・ISO14001 2004年版認証へ移行(3月) ・サクサ株式会社相模原オフィス 5トンボイラー廃止(5月)
2009(H21)	・サクサグループグリーン調達ガイドラインをホームページに公開(6月)
2011(H23)	・CSRの一環としての環境保全活動の位置付けを明確にするため、サクサホールディングス株式会社に環境保全活動の主管部門を設置(2011年4月)、ISO14001 認証登録企業もサクサホールディングス株式会社に変更(2012年3月)
2012(H24)	・サクサ株式会社米沢事業場のボイラー廃止(11月)、大気汚染防止法ばい煙発生施設の該当施設は全廃
2013(H25)	・サクサ株式会社米沢事業場保管の廃PCB(コンデンサ7台)について廃棄処理完了(8月)
2015(H27)	・サクサプレジジョン株式会社保管の廃PCB(コンデンサ1台)について廃棄処理完了(5月) ・製品含有化学物質管理システムの更新(9月)
2016(H28)	・サクサ株式会社米沢事業場保管の廃PCB(安定器等汚染物2缶)について廃棄処理完了(12月) ・サクサテクノ株式会社、サクサプレジジョン株式会社における契約電力の見直しによる電力料金削減。
2017(H29)	・ISO14001 2015年版へ移行(4月) ・サクサ株式会社米沢事業場保管廃PCB(高圧コンデンサ)の処理完了(5月) ・各事業場にて照明のLED化、空調機器の更新時に省エネタイプへの置換えを継続実施
2018(H30)	・サクサテクノ株式会社第1、第2工場の屋根遮熱塗装工事完成(9月)により省エネ化推進

環境管理に影響を及ぼす事業環境等の変化

2018年度、サクサグループの環境管理に影響を及ぼす事業環境上の変化は次のとおりです。

環境管理上に影響を及ぼす事業環境等の変化	対 応
該当事項はありません。	該当事項はありません。

ごあいさつ



サクサホールディングス株式会社
代表取締役社長

松尾直樹

2015年9月に国連サミットで採択された「SDGs(持続的な開発目標)」、同年12月に採択された「パリ協定」などから持続可能な社会に向けた取組みが動き始めました。

サクサグループでは、例えばSDGsの「住み続けられるまちづくり」の目標に対しては、セキュリティ事業などの既存分野にて、「全ての人に健康と福祉を」の目標に対してはヘルスケア市場への新規参入にて貢献できるよう活動しています。

企業を見る尺度も従来の売上・利益等の財務価値に加えて、環境や社会課題にどのように取り組んでいるかを見る、非財務価値にも重きを置くようになってきました。

このような社会潮流を考慮した企業経営が必須となり、それを実行していくことが企業としてますます重要となってきております。

このような背景のもと、次の環境活動を重点的に推進しております。

1. 持続可能な社会に向けた取組み

環境宣言で「持続可能な社会の発展に貢献」していくことを定め、環境活動を実施してまいりました。具体的には、ライフサイクルの開発・調達・生産・輸送・製品使用等の各段階において、「環境負荷の低減」が「事業へのメリット」となるべく活動を行っております。例えば、生産段階での生産効率向上が、省エネ(CO₂削減)/省資源化が実現でき、生産コストの低減が可能となります。

2. 環境管理活動の継続実施

次の活動をとおして環境管理活動を継続して行っております。

(1) 環境関連法令等の定期的チェックおよび改正への対応

(2) グループ一体となった環境活動推進のためのグループ目標設定・実行および
各社独自目標設定・結果のグループ内共有

これらの活動を今後とも継続して実施してまいりますので、皆さまのご支援・ご指導を心からお願い申し上げます。



サクサホールディングス株式会社
取締役
CSR担当

サクサグループ
環境総括責任者

井上洋一

サクサグループでは、重要な経営課題の一つとして2018年度も「CSR 活動の着実な実践」を掲げて環境活動を行ってまいりました。主な活動、結果は次のとおりです。

1. 環境に配慮した製品作り

(1) 製品含有化学物質管理

製品含有化学物質関係規制等の進展への対応および運用改善という目標の一環として、RoHS2の追加物質が2019年7月から施行されるのに対し、社内規程の改訂、運用手順書を作成するなど管理強化、改善を実施し対応準備を行いました。

(2) 環境配慮製品の拡大・充実

経営課題であるコストダウン設計の一環として製品の省資源化に取り組んでおります。製品環境アセスメントにおける「省資源化および包装・梱包の環境保全」に毎年目標値を定め、2018年度も達成することができました。

2. 環境に配慮した事業活動

地球温暖化防止のためエネルギー使用の原単位を基準年(2012年)から2020年に向け、年平均1%以上削減していく目標を掲げ活動を行いました。主要生産拠点であるサクサテクノ株式会社の屋根遮熱塗装、各事業場照明のLED化等の省エネ施策を実施しましたが、夏季の異常気象による気温の上昇により目標を達成することができませんでした。

2019年度は事業活動を考慮した老朽化設備の更新等を実施していくと同時に、デマンド管理等の地道な活動を啓蒙しエネルギー削減活動を実施していく予定です。

これらの環境活動を着実に実施していき、「経営に寄与する」、「経営と一体となった」環境活動となるべく今後も活動を推進してまいります。

サクサグループ環境宣言・環境方針

サクサグループ環境宣言



サクサグループは、
すべての事業分野において環境に配慮した事業活動を推進し、
自然と調和した持続可能な社会の発展に貢献します。

環境方針

環境宣言に基づき、次の行動指針を定め、
サクサグループのひとりひとりが環境保全活動を実行します。

行動指針

1. 地球環境問題が経営における重要課題であるとの認識を持ち、企業としての社会的責任と社会的貢献の役割を果たすため、環境経営を推進します。
2. 情報通信ネットワーク機器ならびにシステム等に関わる開発、設計、製造、販売、保守その他付帯事業を展開していることを踏まえ、グループ一体となって環境マネジメントシステムを構築し、地球環境保全に取り組みます。
3. 内部環境監査およびマネジメントレビューにより環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全活動を推進します。
4. 関連する環境法規制、協定および同意した要求事項、必要に応じて定める自主基準を遵守します。
5. 事業活動、製品、サービスによる、緊急時を含む環境への影響を認識し、適切に管理することにより環境汚染の予防を図ります。
6. 環境方針達成のため、環境に配慮した製品づくり、環境に配慮した事業活動、環境管理を3つの柱とした環境目的・目標を設定し、すべての事業分野をとらして、地球温暖化防止、省エネルギー、省資源、廃棄物削減、循環資源化、有害物質使用削減等に取り組みます。
7. 地域や取引先をはじめとする利害関係者とのコミュニケーションを図り、連携して環境の改善に努めます。
8. 環境方針を全従業員に周知し、環境への意識向上を図ります。

環境総括責任者
2017年6月29日改定

サクサグループ環境計画

環境方針に沿って計画(環境目的)を策定し、継続的改善に取り組んでいます。
計画は、進捗状況および事業環境の変化等に照らして毎年見直しを行い、改訂しています。

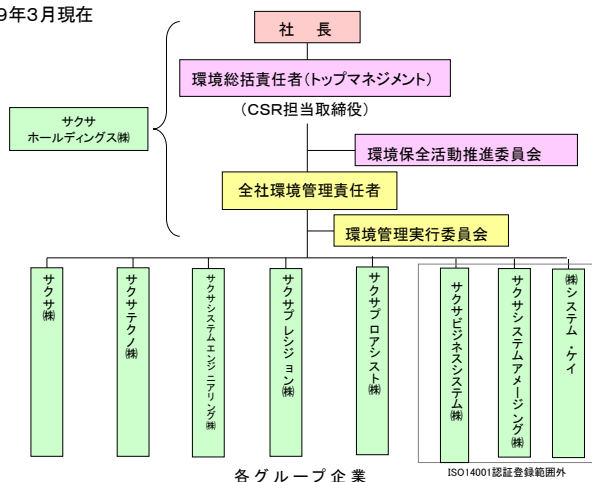
1. 環境に配慮した 製品づくり	(1) 製品含有化学物質管理 製品含有化学物質関係規制の進展への対応
	(2) 環境配慮製品の拡大・充実 環境配慮設計関連規程類の運用を通じた製品環境配慮の推進
2. 環境に配慮した 事業活動	(1) 地球温暖化防止 サクサグループ所有事業場(※)における、エネルギー原単位を前年度より1%以上改善(改正省エネ法を施策に考慮)
	(2) 廃棄物等の削減・循環資源化 ①生産事業場における産業廃棄物排出量/付加価値の改善(資産等の廃棄に関わるものを除く) ②サクサグループ所有事業場(※)における事業系一般廃棄物排出量/人の改善(剪定による木くずを除く)
3. 環境管理	(1) 環境マネジメントシステムの向上 ISO14001 2015年度版 改善/定着

※サクサ株式会社相模原オフィス、サクサ株式会社米沢事業場、サクサテクノ株式会社(八幡原)、サクサプレジジョン株式会社(米沢工場)、サクサシステムエンジニアリング株式会社(八戸本社)

環境保全活動推進組織体制

CSR活動の一環としてサクサグループ一体となった環境保全活動を推進するため、持株会社であるサクサホールディングス株式会社に環境保全活動推進委員会を設置し、活動を行っています。

2019年3月現在



環境保全活動推進委員会は、各グループ企業の代表を含むメンバー構成で、サクサグループにおける中期的な環境計画、年度目標その他環境保全活動における重要事項を審議するとともに、活動の総括を行う機関です。

各グループ企業は、それぞれが独立した実行単位としてグループ全体の計画、目標に沿って、また、独自の視点も加えた目標設定を行い、活動を実施します。

環境マネジメントシステム・ISO14001認証取得状況

サクサグループでは、サクサホールディングス株式会社を登録事業者として、グループ企業を含めたISO14001認証を取得しています。

<環境マネジメントシステムの継続的改善>

環境マネジメントシステム運用状況を確認し、適合性、妥当性、有効性を判断するため、年1回下期に定期内部環境監査を実施し、発見された不適合事項、改善事項について、是正、改善を行っています。

また、毎年、環境マネジメントシステム認証機関による審査を受け、客観的な視点からの指摘に対する改善を行うことによって、レベルアップを図っています。

年度末には、実行部門ごとに、環境目的・目標の達成状況、法規制等の順守状況、内部環境監査の結果等をもとに環境マネジメントレビューを実施し、結果を環境総括責任者へ報告します。

報告された内容を踏まえ、グループ全体の環境保全活動を環境保全活動推進委員会で総括し、環境マネジメントシステムおよび環境に関する計画等に反映し、継続的改善につなげています。

<ISO14001認証取得状況>

<認証機関> 一般社団法人 日本品質保証機構
 <登録証番号> JQA-EM0381
 <登録事業者> サクサホールディングス株式会社

<登録範囲>

登録活動範囲：ボタン電話装置、カード関連機器、ネットワーク機器、セキュリティ機器、その他部品の設計・開発、製造および販売

関連事業所：()内は、複数の事業場・拠点がある場合における対象サイト

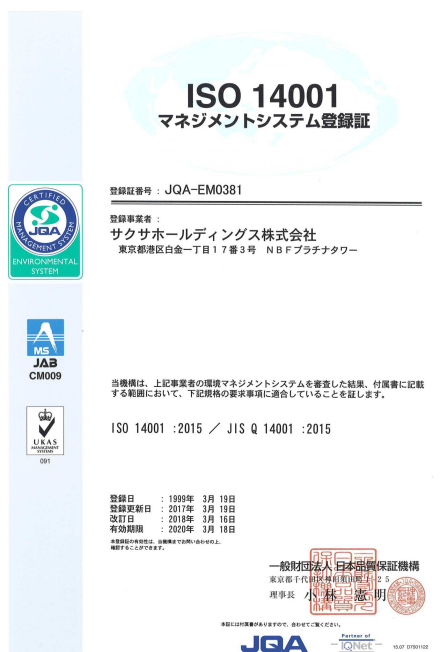
サクサホールディングス株式会社
 サクサ株式会社(本社、相模原、米沢)
 サクサシステムエンジニアリング株式会社(八戸本社、相模原)
 サクサテクノ株式会社
 サクサプレジジョン株式会社(米沢工場)
 株式会社コアタック ※
 サクサプロアシスト株式会社(相模原、米沢)

登録更新日 2017年3月19日

改定日 2018年3月16日

有効期限 2020年3月18日

※2018年11月 株式会社コアタックはサクサテクノ株式会社により吸収合併された。

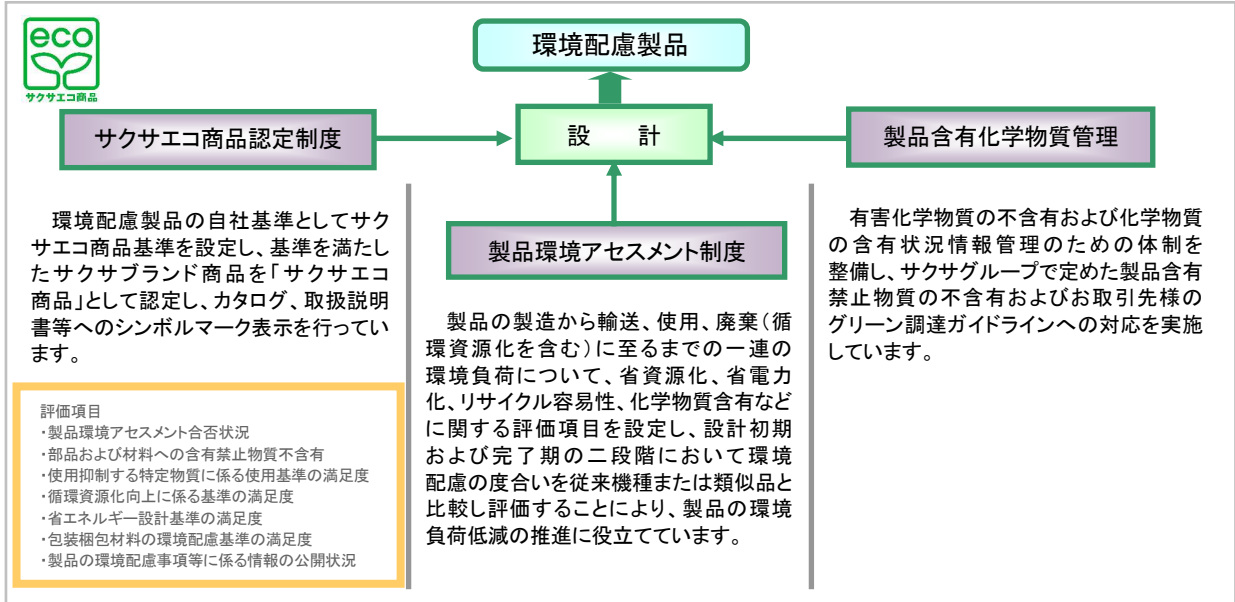


製品の環境配慮

製品の環境配慮は、お客様や社会からの重要なニーズと考えています。

製品の設計に際して環境配慮を推進するための制度を設け、環境配慮設計に努めています。

環境配慮設計に関わる制度



サクサグループグリーン調達ガイドライン

サクサグループグリーン調達ガイドラインを定め、サプライヤー様には製品含有化学物質管理で定めた含有禁止物質の不含有をお願いするとともに、化学物質含有情報について提供協力いただいております。

化学物質に関する事項はもとより、環境に配慮した企業から、環境に配慮した物品を調達するための基準を定めています。

サクサグループグリーン調達ガイドラインは、サクサグループホームページ(<https://www.saxa.co.jp/>)の「環境への取り組み」で公表しております。

最近発表したエコ商品

サクサ株式会社

ビジネスにさらに安心をもたらす UTM「SS5000 II」

中小規模オフィス向け UTM(統合脅威管理アプライアンス)「SS5000」シリーズに新たなサービス、機能を追加した、「SS5000 II」シリーズを発売しました。

今回新たに「SS5000 II」シリーズでは、ウイルス駆除サービスの対象機種を全ラインアップへ拡大するとともに、万が一リモートでウイルス駆除できない場合でも、現地訪問対応を実施します。(離島除く)

現在の「サクサ UTM 見える化ツール」の各種グラフなどの視認性をアップするとともに、黒を基調とした高級感ある画面デザインへ刷新し、お客さまが見やすく、ご利用いただきやすいよう変更を行いました。

PC が C&C サーバと通信するマルウェア等に感染した場合、C&C サーバとの通信をブロックするとともに、登録したメールアドレスへ警告メールを通知します。

「SS5000 II」は、コンパクト化、軽量化、部品点数削減などによる省資源化、また、廃棄時のリサイクル容易化など、環境に配慮した設計を行いました。



SS5000 II Std



サクサ見える化サイト



製品の環境配慮

サクサエコ商品



2019年9月現在の認定商品から主なものを紹介します。

ネットワーク



豊富なビジネスホン機能に加え、スマートフォンと連携して
外出先から受信・確認できる機能を搭載
中小規模オフィス向けビジネスコミュニケーションシステム
PLATIA II (Std/Pro/Ult)



NEW
SIP 端末 (30 ボタン電話機)
NP520



NEW
IP 多機能電話機 (30 ボタン電話機)
NP820



企業と社員のために、すぐに始められる
「働き方改革」を提供
GF1000 (Std/Pro)



NEW
ビジネスにさらに安心をもたらす強力なUTM
**統合脅威管理アプライアンス (UTM)
SS5000 II**



不正端末侵入防御、メールセキュリティ機能搭載
**情報セキュリティゲートウェイ
GE1000**

セキュリティ



非接触ICカード対応
アナログ電話回線だけでなくインターネット回線接続にも対応
ホームセキュリティ送信機
SHA-5100/SHA-5100C



異常事態をしっかりと感知しスピーディに通報
ホームセキュリティ向け無線センサ
SR シリーズ
(写真は左から、SR-100 パッシブセンサ、SR-300 マグネットセンサ、SR-400 火災センサ)



携帯電話への緊急通報、メール通報、非接触 IC カード対応、キーテレホンと
運動により高度で広範囲なオフィスセキュリティを提供
中小規模事業所に最適なオフィスセキュリティ送信機
BS1000 送信機



IP網経由で警報や画像を転送
中大規模事業所向け機械警備用送信機
TS-NT1003 送信機

各製品の仕様等については、サクサグループホームページ(<https://www.saxa.co.jp/>)の「製品・システム情報」でご覧になれます。

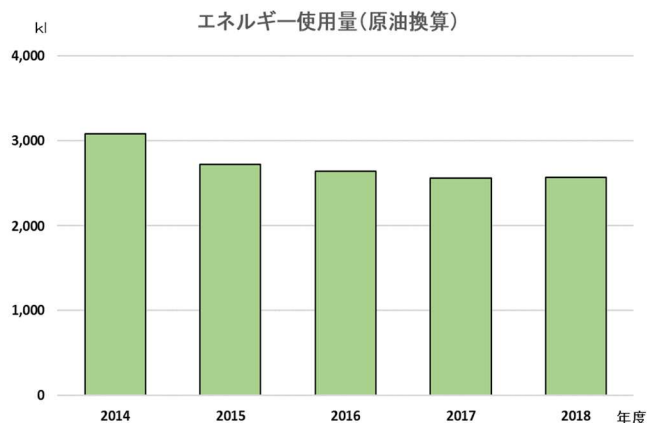
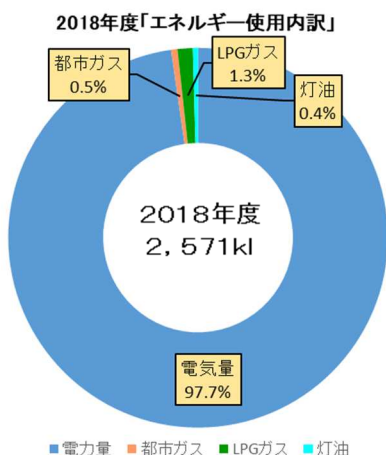
事業活動に関する環境配慮

地球温暖化防止・省エネルギー

地球温暖化防止およびCO2削減のため、省エネルギー活動を推進しており、2018年度も前年度に引き続き、エネルギーの効率的な使用に向けた省エネ活動を実施しました。

エネルギー使用量(原油換算値)は、各グループ会社で継続的に照明のLED化、更新時に環境配慮設備を導入、2018年度はサクサテクノ株式会社(八幡原)の工場屋根遮熱塗装施策等を実施しましたが、夏季異常気象の影響等もあり前年度比0.4%増加しました。異常気象は来年度以降も続く可能性が高く、今後とも各種省エネ施策を継続的に実行していくとともに、更にグループ一体となった環境活動を確実に推進してまいります。

(※2014年度から2018年度の5年間では16.7%削減)



サクサグループにおいては、エネルギー使用量原油換算値集計の結果、エネルギーの使用の合理化に関する法律に定められた「特定事業者(※)」として指定を受ける企業はありません。

注)掲載したグラフの集計範囲は、サクサグループが所有している5事業場です。

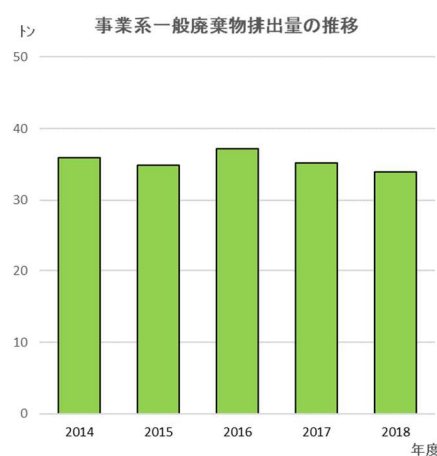
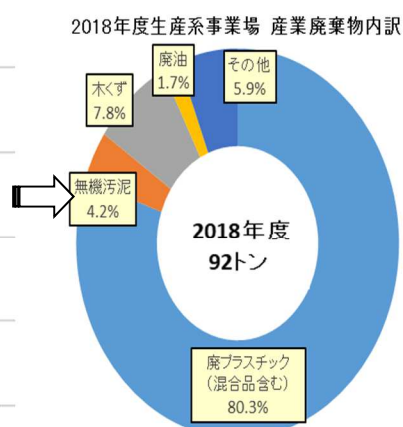
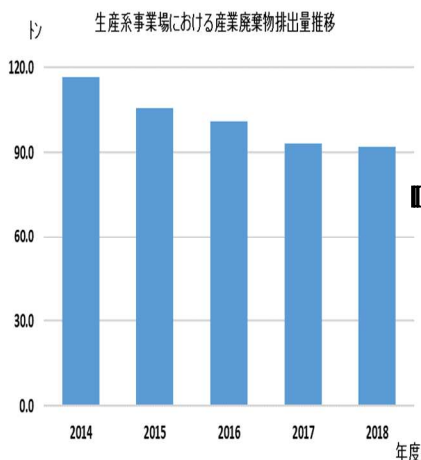
対象事業場については、3ページ「環境報告書2019について」を参照下さい。また、集計対象エネルギーには、構外を走行する車両のガソリン、軽油を含みません。

廃棄物削減・循環資源化

事業活動により発生する廃棄物について、発生の抑制と循環資源化を図っています。

産業廃棄物については、生産系事業場において目標値を定め削減活動を実施した結果、前年度から1.2%減少しました。これは、パレットのリサイクル化や廃棄物の分別徹底による有価買取促進等による廃棄物排出方法の改善活動の結果によるものです。

なお、事業系一般廃棄物の排出量についても、排出時における分別の徹底を実施した結果、前年度から3.7%減少しました。引き続き分別の徹底等削減活動に取り組んでいきます。



・生産系事業場:サクサ株式会社米沢事業場、サクサテクノ株式会社(八幡原、旧株式会社コアタック)サクサプレジジョン株式会社(米沢工場)
 ・産業廃棄物排出量のグラフでは、非典型的に発生する廃棄物は除いています。

・剪定による切り枝は除く。
 ・事業系一般廃棄物の集計範囲は、サクサグループが所有している5事業場。事業場については、3ページ「環境報告書2019について」を参照下さい。

事業活動に関する環境配慮

化学物質管理

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)」には、事業者に対して、化学物質の自主的な管理と一定要件に該当する場合、排出量、移動量を届け出ることが定められています(PRTR制度)。

サクサグループでは、この趣旨を踏まえ適切な管理を行うとともに、可能な限りの使用抑制・削減を図っています。2018年度の状況において、サクサグループ内ではサクサテクノ株式会社がPRTR制度の届出要件に該当することから2019年11月に届出を行いました。

PRTR該当物質排出量及び移動量

届け出を行った事業所の名称	第一種指定化学物質の名称	年度別量(単位:kg)				
		2014	2015	2016	2017	2018
サクサテクノ株式会社(山形県)	アンチモン及びその化合物	120.0	60.0※	200.0	710.0※	590.0

※2015年度は廃棄プラスチックを一部有価処理したため減少しています。また2017年度は仕事量増加により、増加しております。

・サクサプレジジョン株式会社(米沢工場)では、アンチモン及びその化合物の集計しておりますが、届出要件に達していません。

ポリ塩化ビフェニル(PCB)の管理

ポリ塩化ビフェニルは、難分解性の性状を有し、人の健康および生活環境に有害な物質であり、汚染の拡大を防止するため、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により、ポリ塩化ビフェニル(以下「PCB」)廃棄物について、保管および処分の状況の届け出、期間内の処分、譲渡し・譲受けの制限などが定められています。

サクサグループにおいてPCB廃棄物を保管している事業場では、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の定めに従い、PCB廃棄物の散逸、漏洩等による環境汚染が発生しないよう管理しています。

また、現在も使用中の照明用安定器(PCB使用機器)については、使用済となったときに確実に回収するよう管理しています。2019年3月31日時点において、サクサグループで保管しているPCB廃棄物は下表のとおりです。なお、処理の早期登録対象機器については、日本環境安全事業株式会社に処理登録済みです。

PCB廃棄物保管状況(2019年3月31日時点)

廃棄物の種類	保管量	
	相模原オフィス	米沢事業場
高圧トランス	8台	0台
高圧コンデンサ	25台	0台
蛍光灯安定器	194個	0個
PCB汚染物等	0点	0点

規制遵守状況

法律や条例により規制が定められている事項について、これを遵守し、また、リスクに応じ、規制に該当しない場合でも環境への負荷を最小限に抑えるために、規制に準じた管理を行っています。

2018年度、サクサグループの事業場において、法令・条例の基準値からの逸脱はありませんでした。

事業場	項目		基準値		2018年度測定値 ※1
			法令・条例の基準値	自主管理値	
相模原オフィス (神奈川県相模原市)	騒音	昼間および朝夕 (dB)	75	70	66.0 ※2
	振動	昼間および朝夕 (dB)	70	65	< 40 ※2、※3
米沢事業場 (山形県米沢市)	騒音	昼間 (dB)	70	60	57.0
		夜間 (dB)	55	55	55.0
	振動	昼間 (dB)	65	50	< 45 ※3
		夜間 (dB)	60	-	- ※4

※1 実績値は、年度および測定ポイントの最大値を掲載。設備機器不良の場合は修復後の再測定値。

※2 夜間の操業はないため、夜間の測定はしていません。測定は、稼働中の「昼間」の時間帯に実施しています。

※3 当該測定機器の測定限界値以下。

※4 昼間、通常操業中の測定にて測定限界値以下であるため、夜間は測定していません。

事業活動に関する環境配慮

緊急事態への対応

貯油施設等からの漏洩、化学物質の流出などの環境汚染に関する緊急事態を想定し、対応手順を整備するとともに、定期的に訓練を実施して、万が一の場合の影響を最小限に抑え、迅速に復旧できるよう備えています。

また、このようなリスクを回避するため、日常のおよび定期的に監視を行っています。

2018年度において、環境への影響が発生する緊急事態の発生はありませんでした。

環境教育・啓蒙活動

環境保全活動に関連し、自覚教育(eラーニングの活用等)や啓蒙活動を継続的に実施し、環境意識の定着・向上を図っています。

新入社員、新任管理職研修のプログラムには環境に関する単元を組み込むとともに、業務用車両運転資格登録者への安全運転講習会におけるエコドライブの意識づけ、製品含有化学物質管理に関する説明会受講などにより必要な知識の習得を行っています。

2018年度環境目標達成状況

環境目標		達成状況	達成状況等
環境製品づくりに配慮した	(1)製品含有化学物質管理		
	製品含有化学物質規制等の進展への対応および運用改善 RoHS2 追加物質対応による管理方法の見直しシステム検討	○	規程類の改訂およびシステムによる RoHS2 管理方法、効率化検討
環境製品づくりに配慮した	(2)環境配慮製品の拡大・充実		
	環境配慮設計関連規程の運用を通じた製品環境配慮の推進 製品の省資源化によるコストダウン	○	経営課題であるコストダウン設計の一環として製品の省資源化の取り組み実施
環境事業活動に配慮した	(1)地球温暖化防止		
	2013年度～2018年度のエネルギー原単位※1を2012年度に対して年平均1%以上改善する(改善率 5.9%以上) (サクサグループ所有 5事業場)	×	改善率 2.8%
	(2)廃棄物等の削減・循環資源化		
	① 生産事業場における産業廃棄物排出量原単位※2を前年度より改善	○	改善率 0.3%
② 事業系一般廃棄物排出量原単位※3を前年度より改善 (サクサグループ所有 5事業場)	○	改善率 1.3%	
環境管理	(1)環境マネジメントシステムの向上		
	経営に寄与する環境マネジメントシステムへの改善	○	ISO14001 2015年度版の改善と定着 ・内部監査に関する集合教育実施(9月) ・JQA外部審査によりシステムの有効性が認められた

※1 エネルギー使用量(原油換算値)÷付加価値※4

※2 産業廃棄物排出量÷付加価値※4

※3 事業系一般廃棄物排出量÷付加価値※4

※4 売上高-外部購入費(原材料費等)

社会貢献活動を通じた環境への寄与

サクサグループでは、事業活動に直結した環境保全活動とあわせて、企業の社会的責任としての、社会や地域に貢献できる環境活動も推進しています。

各事業場では、近隣企業とともに行う清掃活動への参加をおよび地域の美化に努めています。



近隣企業合同清掃(相模原オフィス)集合写真



近隣企業合同清掃(相模原オフィス)集合写真



近隣企業合同清掃(相模原オフィス)清掃風景



八幡原工業団地 中央分離帯清掃
(サクサテクノ株式会社)



八戸ハイテクパーククリーン作戦
(サクサシステムエンジニアリング株式会社)